

養老孟司 先生 来校 『探究することの大切さ』特別授業 6月17日

6月17日(月)『探究することの大切さ』をテーマに全校生徒を対象にして、東京大学名誉教授でいらっしゃる養老孟司先生に特別授業をして頂きました。先生は、島根県の中山間地域研究センター特別顧問でもあり、今回は県の中山間地域研究センターの取り計らいにより実現しました。

授業では、生徒と同じ位置に立たれ生徒に直接発言を求めるなど、まさに授業でした。放課後、希望する生徒との交流会ももたれ、先生の著書を読んだことのある生徒や生き物好きの生徒が集まり、時間を超えて質問の連続でした。

以下、生徒に課した授業レポートのうち、感想の部分の一部を紹介します。

「先生の生き方に触発されました。日頃から疑問を持ちながら探究することで驚きや発見があることがわかりました。私も、探究することへの連鎖を楽しんでみたいと思います。」「人のみができる交換性について『同じであること』と『違う』の両方を意識しながら両方を大切に行動していきたいと思います。」「私は、放課後の交流会に参加して、先生に直接質問することができて感激しました。丁寧にわかりやすく解説していただき、自分でも調べてみたいと思います。」

生徒のみならず、聴講した私たち教職員も、養老先生のバイタリティーが胸に響きました。ありがとうございました。



地元ケーブルテレビの他、新聞記事にもなりました。

「個性」大切に

東大名誉教授 養老さん

解剖学者で東京大名誉教授の養老孟司さん(81)による特別授業が17日、県立益田高校(益田市七尾町)であった。養老さんは長年探究してきた人間と動物の違いについて持論を披露。ユーモアを交えて全校生徒約450人に個性の大切さなどを語りかけた。写真。

益田高生450人に特別授業

したり、自分を相手の立場に置き換えて考えたりして社会を形成してきたと解説。ただ、近年は社会の均一化が進んでいるとし、「同じであることと違うことのバランスが大切」と話した。

3年の河井奈南さんは「個性が重視される社会的背景がよく分かった。周囲の人との違いを意識しながら自分の個性を見つけないと」と感想を述べた。

養老さんは県中山間地域研究センターの特別顧問を務め、2006年から毎年1校ずつ、県立高で特別授業をしている。

【竹内之浩】

6月19日 毎日新聞

「人と動物の違い」とは

益田高 養老さんが特別授業

人間と動物の違いについて説明する養老さん(全手廻)

ベストセラー「バカの壁」の著者で、東京大名誉教授の養老孟司さん(81)が、益田市の益田高で「人間と動物の違い」をテーマに特別授業をした。全校生徒約450人が、人間社会が発展した理由などについて考えた。

養老さんは「動物は自分の感覚しかないが、人間は言葉で概念を共有することができる」と強調。「人間は概念の共有で等価交換ができるようになり、社会が成立した」と話した。一方で、近年はスマートフォン

の間にも備わっている感覚が鈍っているとし、「感覚と概念のバランスが大事」と訴えた。

養老さんに「人間性とは何か」などと質問する生徒もいた。3年河井奈南さん(18)は「周りの人と同じ概念を持ちながら、自分の個性を見つけていきたい」と話していた。

特別授業は、養老さんが特別顧問を務める県中山間地域研究センター(飯南町)が2006年から毎年、県内の高校で開いている。(根石大輔)

7月1日 中国新聞